

一般演題抄録

- I-1 インターフェロン調節因子-3を介した
レチノイン酸誘導遺伝子-1の新規転写調節機構
○早狩 亮 松宮 朋徳 邢 飛 吉田 秀見
今泉 忠淳
(弘前大・院医・脳血管病態学)

- I-2 プロボフォールによるマウス心電図への影響
○新宅 知博¹ 大場 貴喜³ 丹羽 英智² 櫛方 哲也²
廣田 和美² 尾野 恭一³ 村上 学¹
(弘前大学・病態薬理¹、麻酔科²、秋田大学・細胞生理³)

- I-3 情動障害マウスにおける脊髄損傷後運動機能回復の検討
Phospholipase C-related catalytically inactive protein (PRIP) modulates
locomotor function after spinal cord injury in mice.
○藤田 拓¹ 熊谷 玄太郎¹ 劉 希哲¹ 和田 簡一郎¹
田中 利弘¹ 陳 俊輔¹ 平田 雅人² 兼松 隆³
二階堂 義和⁴ 上野 伸哉⁴ 石橋 恭之¹
1)弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座
2)九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座
3)広島大学医歯薬保健学研究院細胞分子薬理学研究室
4)弘前大学大学院医学研究科脳神経生理学講座

- II-4 当科における C 型慢性肝炎に対するシメプレビル
3 剤併用療法の治療効果
○山居 聖典^{1,2} 鎌田 耕輔^{2,3} 相澤 弘¹
吉原 綾子¹ 小笠原 仁¹ 福田 眞作²
(大館市立総合病院 消化器・血液・腫瘍内科¹
弘前大・院医・消化器血液内科学² 独立行政法人
国立病院機構 弘前病院³)

【背景】2014年9月からIFN-freeのDAAs経口2剤併用療法が可能となったが、IFN適格例では第2世代プロテアーゼ阻害剤であるシメプレビル(SMV)/Peg-IFN/リバビリン(RBV)3剤併用療法が、HCV Genotype1型・高ウイルス量例に対するIFN-based therapyの第一選択となっている。今回当科におけるC型慢性肝炎に対するSMV3剤併用療法の治療効果ならびに安全性について検討した。

【対象】2014年1月以降SMV/Peg-IFN α -2b/RBV3剤併用療法を施行した1型・高ウイルス量C型慢性肝炎11例。性別：男性7例・女性4例。年齢中央値：64歳(46-76歳)。前回治療歴：初回治療1例、前治療再燃7例、前治療無効3例(Null response 1例・Partial response 2例)。IL28B(rs8099917)SNP：TT 6例・TG 5例。治療開始前HCV-RNA 6.8 LogIU/mLであった。

【結果】24週治療完遂例は10例(90.9%)で、1例は副作用のために14週で治療を中止した。SMV休薬を必要とした症例はなかった。HCV-RNA陰性化率はRVR 63.6%、EOTR 90%、SVR4 70%。前治療効果別のSVR4率は、初回例/再燃例/無効例で100%/83.3%/33.3%であり、前治療無効群は治療効果が低かった。IL28B別SVR4率はTT 100%、TG 20%とIL28B minor群で有意に低かった。nonSVR4のうち治療完遂例は3例で、relapse 2例、partial response 1例であった。いずれも前回治療無効例もしくは再燃例で、IL28B minor・HCV Core aa70 mutantであった。有害事象は全身倦怠感(55%)、食欲不振(36%)、皮疹・掻痒感(27%)、Hb 8.5g/dL未満の重症貧血は2例(18%)であった。治療中止例は高度の全身倦怠感・食欲不振によるものであった。

【考察・結語】SMV3剤併用療法は、早期のウイルス学的効果が良好で、副作用も少なく治療完遂率も高かった。前治療歴やIL28B SNPは治療効果に関連するため、多様化するC型肝炎治療の選択肢として重要な指標となり得る。